



まい 埋やちよ

No. 9

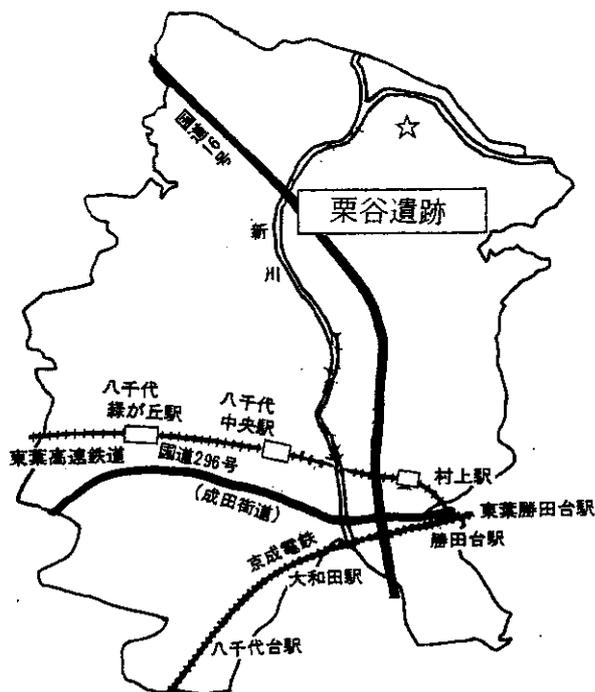
千葉県八千代市
埋蔵文化財通信
2006, 5, 15
(平成18年)

栗谷(くりや)遺跡特集

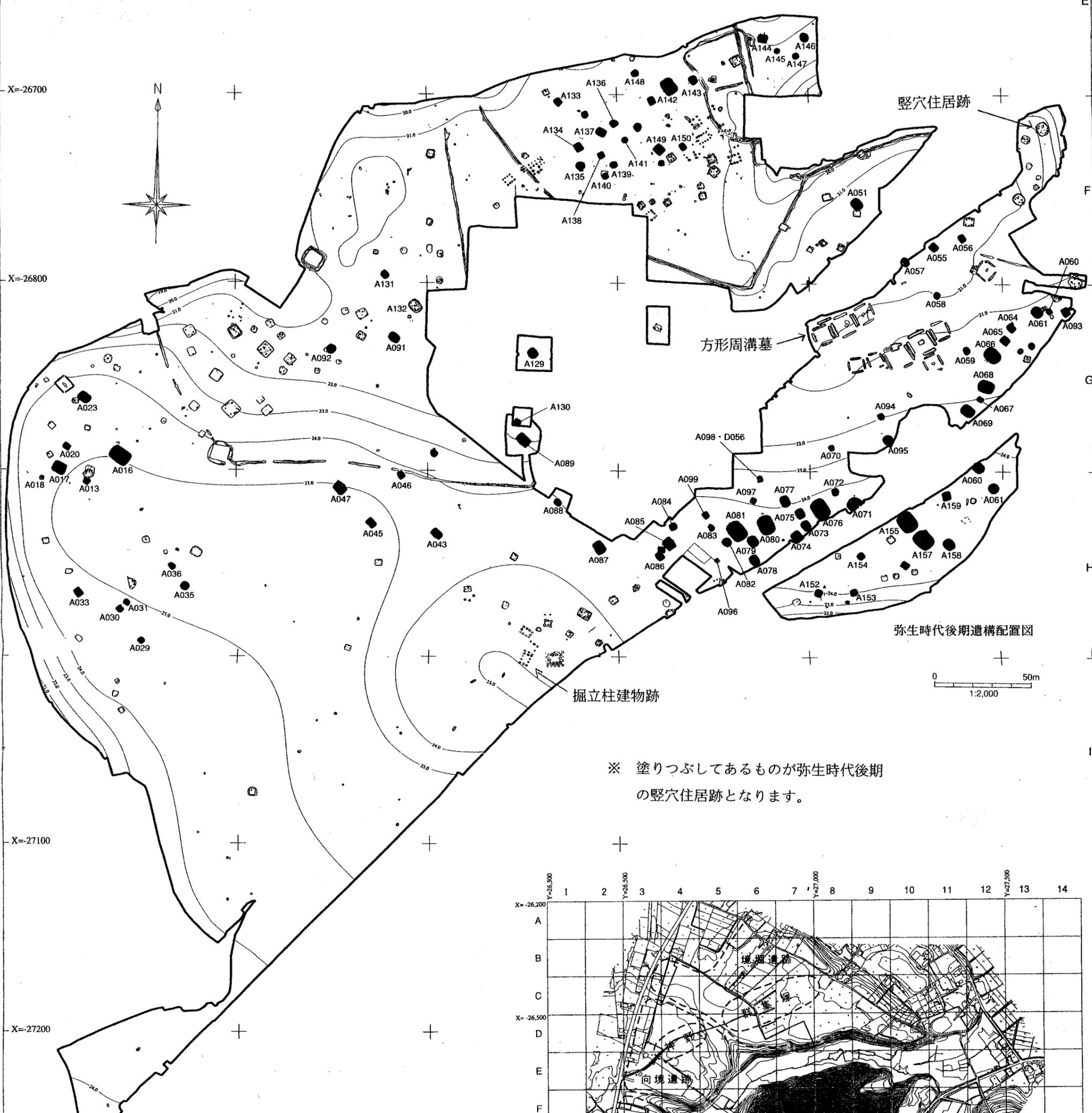
平成12年以来、しばらく休刊状態が続いていました「埋やちよ」ですが、久しぶりの発刊となりました。今回は八千代市の北東部に所在する八千代カルチャータウンの開発事業に関連した埋蔵文化財調査が、調査報告書の刊行を含めて終了したことをきっかけとしまして、その中の一つである、栗谷遺跡を少しばかり紹介したいと思います。

【栗谷遺跡の位置】 栗谷遺跡は、八千代市北東部の保品地区に所在し、遺跡北側に新川を望む、台地の先端から平坦部に位置しています。台地は印旛沼にほど近く、二つの谷津に囲まれた舌状台地で標高は約20~24mです。現在は住宅地と東京成徳大学が建設され、発掘調査前とは、景色が一変しています。栗谷遺跡と同じ開発目的で調査された周辺の遺跡としては、上谷(かみや)遺跡、役山東(やくやまひがし)遺跡、向境(むかいさかい)遺跡、境堀(さかいほり)遺跡などがあり(別図参照)、開発範囲を越えてもなお、遺跡が広がっていることが知られています。

【遺跡の概要】 栗谷遺跡は、縄文時代~近代に至るまで実に様々な時代の住居



や土器が出土しています。栗谷遺跡は一つの台地全体を調査することができ、どの時代を見ても、その時代のムラの姿を全体として知ることのできる数少ない遺跡と言えます。特に弥生時代では大きな成果を挙げました。弥生時代中期では、竪穴住居跡が5軒と方形周溝墓と呼ばれるお墓が11基調査され、集落を住まいとお墓の両面から考えることができました。また、後期では、住居跡の総計は92軒にのぼり、印旛沼南岸(八千代市・佐倉市成田市)で最大級の弥生時代後期の集落遺跡となりました。

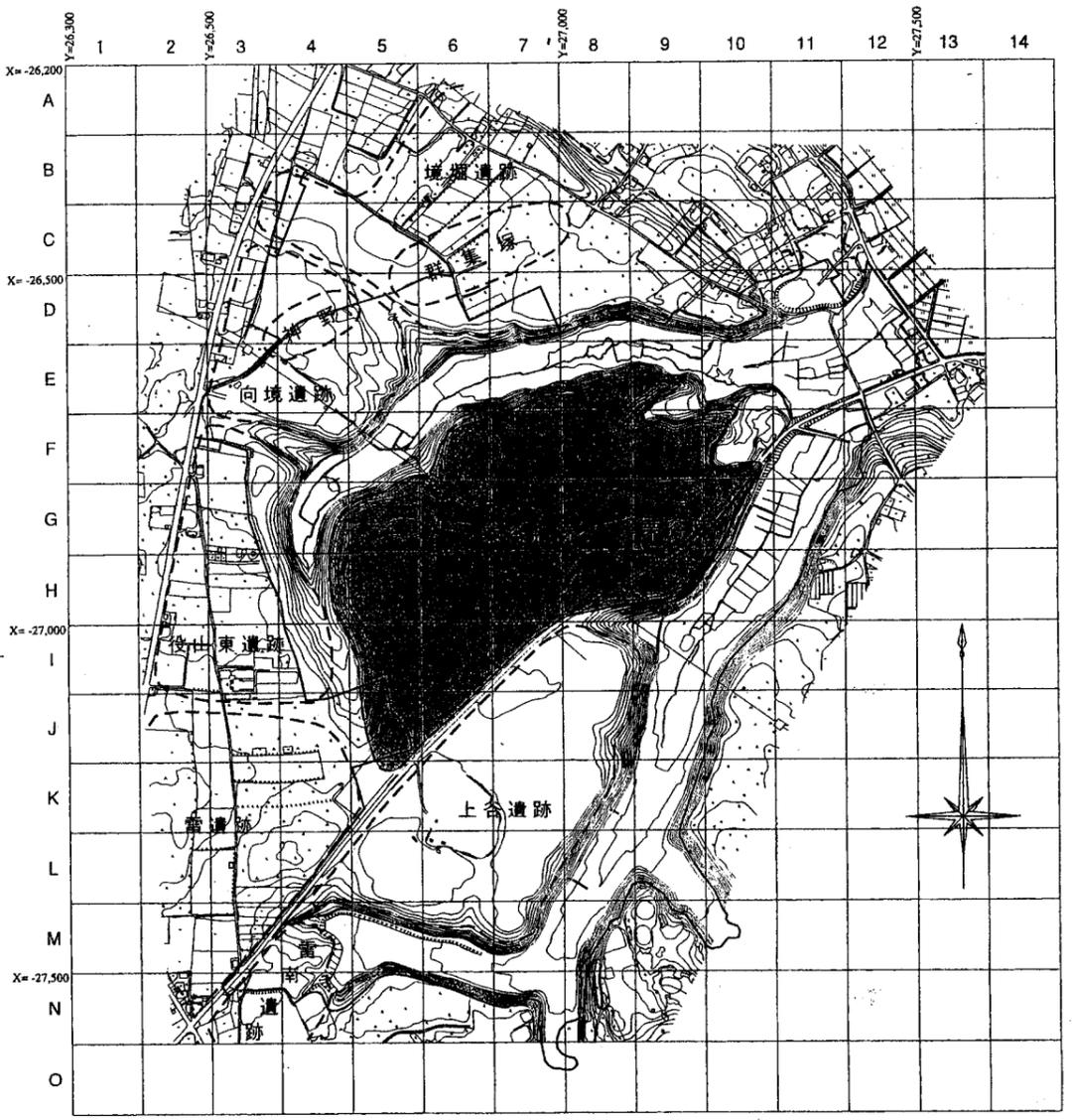


弥生時代後期遺構配置図

※ 塗りつぶしてあるものが弥生時代後期の竪穴住居跡となります。

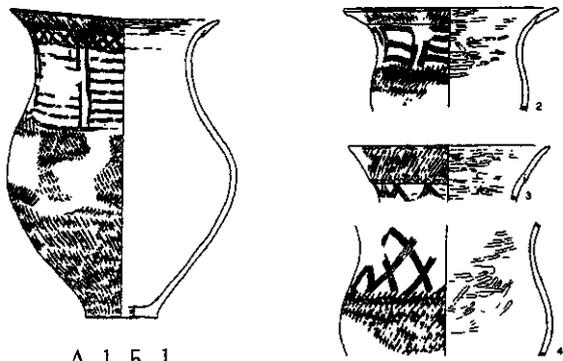
遺構の概要

縄文時代	竪穴住居跡	6軒 (前期 黒浜期 2 中期 加曾利E期 3 後期 堀之内期1)
	炉穴	40基
	陥穴	6基
	土坑	33基
	その他の遺構	6基
	遺物包含層	1ヵ所 (早期~晩期)
弥生時代	竪穴住居跡	97軒 (中期 宮ノ台期 5 後期 92)
	方形周溝墓	14基 (中期 宮ノ台期 11 後期 3)
	土坑	15基 (中期 宮ノ台期 1 後期 14)
	その他の遺構	5基
古墳時代	竪穴住居跡	30軒 (前期 23 中期 4 後期 3)
	方形周溝墓	2基 (前期)
奈良・平安時代	竪穴住居跡	55軒
	掘立柱建物跡柱	13棟
	土坑	24基
	その他の遺構	10基
中世以降	塚	1基
	土坑	67基
	溝	5条
	その他の遺構	4基

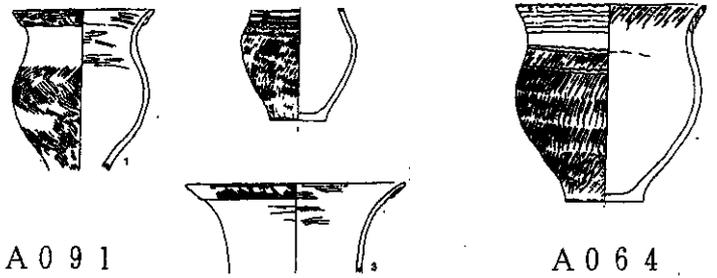


—— 開発事業区域 ■ 栗谷遺跡
 - - - 遺跡区域

0 400m 1:10,000



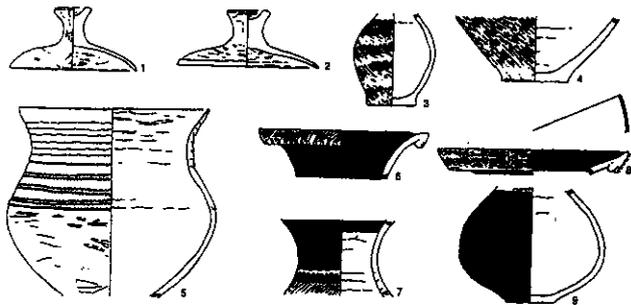
A 1 5 1



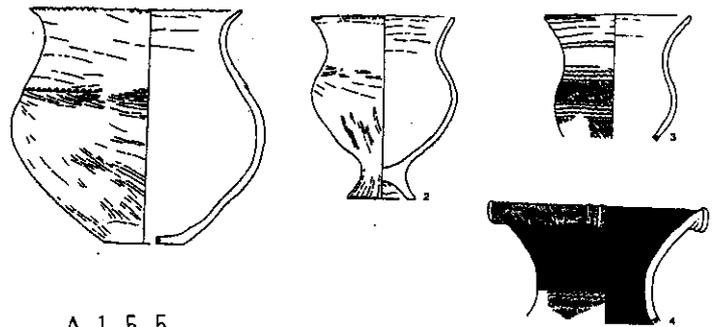
A 0 9 1

A 0 6 4

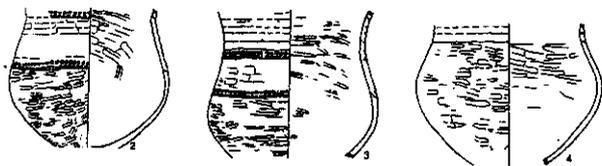
様々な模様のある弥生土器がたくさん出土しました。



A 0 8 0



A 1 5 5



A 0 8 3



A 1 4 2

栗谷遺跡出土の弥生土器
(弥生時代後期)

S = 1 / 8

【出土遺物の概要】 調査された竪穴住居跡等の時代と同様に、縄文土器～平安時代に至る土器をはじめ、石器や金属製品など様々なものが出土しました。

特に注目されるのは、やはり弥生時代後期の土器群でしょう。印旛沼沿岸の弥生土器の特徴として、甕の胴体部分に縄目模様をつけ、口の部分を輪積みの段段模様をつけることが挙げられます。栗谷

遺跡でもそうした特徴をもつ土器がたくさん出土しました。ただ、そうした土器の中に、栗谷遺跡ならではの模様や形をした土器も有りそうなことも判ってきました。これからの検討が楽しみな所でもあります。

皆さんも、これをきっかけとして、栗谷遺跡のこと、八千代市の弥生時代のことなどを考えてみてはいかがでしょうか。

埋 (まい) や ち よ N O . 9

—千葉県八千代市埋蔵文化財通信—

平成18年5月15日発行

編集・発行

八千代市教育委員会

社会教育課 文化財保護班

八千代市大和田138-2

☎276-0045 047(481)0304

—編集後記—

久々の発行となりました。また、定期的に発行できるように努力します。今後ともよろしくお願ひします